

## 2016年1月の山西省

2016年になりました。改めまして新年あけましておめでとうございます。

早いもので留学五か月が過ぎました。一月に行ったこと、気づきを報告していきたいと思えます。

山西大学の授業が12月31日もきっちりあり、お正月休みは1月1日のみで味気ないものでした。12月は日本の大学の卒業論文提出があり、なかなか時間がとれませんでした。1月は学校の外にでて、「自分の目で山西省を見ること」を自分の中でテーマに掲げました。大学の中の中国人の友人、留学生の友人、先生以外の人と交流、また学外を見ること通して新たな発見があると考えました。

市内のバスが初乗り0,5元スタート(10円)ですのでバスを使い市内を回ることになりました。中国のバスはにぎやかで、乗客が皆、話をしているのでリスニングの練習になります。学校では出会わないご年配の方言が強い方、小さな子供が話す中国語など良いリスニングの練習の機会があります。

語学と車の運転は似ているとよく聞きます。

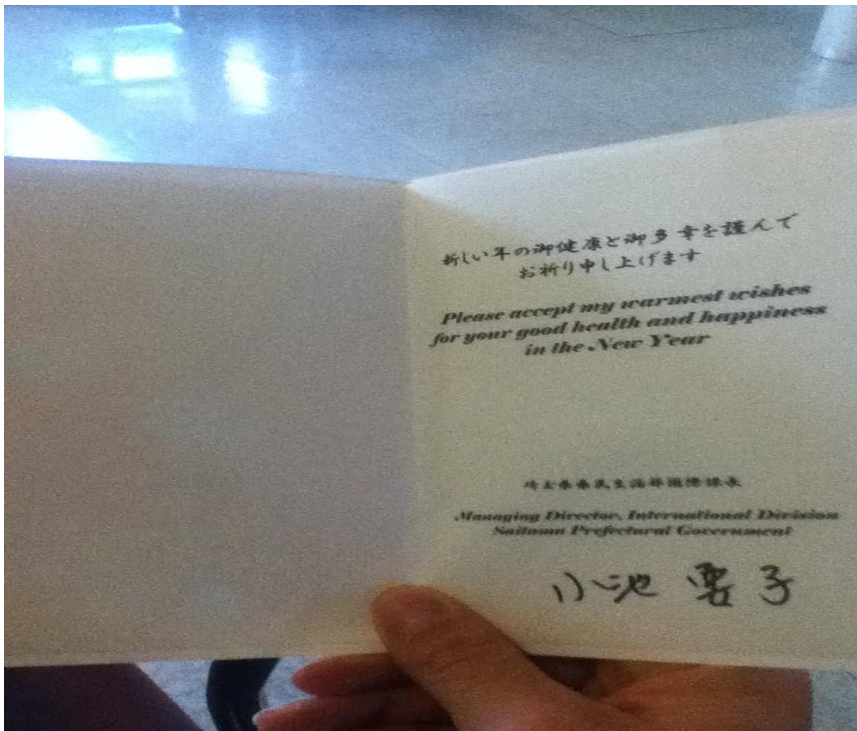
学校での授業、中国検定取得は車の運転でいうと教習所での座学と仮免取得した状況と一緒だということです。近年インターネットが発達し、語学習得だけのために留学に来るということの価値が薄れています。

留学時に学校の授業、校内での活動、自分が得意な分野だけの活動だと、ずっと教習所だけで車運転し、上手くなっていると自己満足に浸っている状況と同じということだと私は感じました。車は外で無免許で運転したらアウトですが、語学の場合は苦労がありますが、たくさん学外で「交通事故」を起こした分だけ中国語が伸びると私は思います。

また観光地ではない、いたって普通の町中でも日本と同じ部分、違いがある部分が見えてきました。例えば日本も中国もマクドナルドは高校生のみ取り場になっていること、中国のフィットネスジムでは内履きに履き替えなくて良いこと、太原市内にある無印良品は日本の価格の2倍したなどの気づきがありました。

こうした小さな気づきを大切にしていくことで、もっと大きな気づきができると思えます。

大久保豪



埼玉県から山西大学の寮に新年のメッセージカード届きました。ありがとうございます。



太原の本屋で村上春樹の本発掘。